

Contents

読書のすすめ2015.....	2
海外博物館事情.....	10
11月12月の特別展等	12
リニューアル情報.....	14
トピックス.....	15



読書のすすめ 2015

全国の博物館職員、司書、科学者、絵本評論家、編集者など11名の皆さんに、「親子で読みたい科学の本」を2冊ずつ選んでいただきました。読み聞かせて子供の気持ちを捉える絵本には、自然というフィールドへ親子を誘う仕掛けがあります。すばらしい絵本を読んだときには、その感動を胸に、子供といっしょに野山や街中の公園を歩いてみましょう。きっと大人にとっても新たな発見があるはずです。

近年、来館者の低年齢化が進んでおり、展示を未就学児童対象に再構成する館が増えています。ここに掲載した22冊の絵本が、展示・教育・普及活動のお役立てばと思います。 (本誌編集委員 畠山 泰英)

稲坂 恒弘・田辺 あらし

広島市交通科学館

『わんぱくだんシリーズ』

わんぱくだんのはしれ!いちばんぼし』

■作: ゆきのゆみこ・上野与志
絵: 末崎茂樹 ひさかたチャイルド 1993年

子どものころ外遊びに夢中になりすぎ、ふと気が付けばあたりは真っ暗、慌てて家へ走って帰った…そんな経験を、多くの大人たちはお持ちだろう。仲間と過ごした至極の時間と空間は、夢と現実がごちゃまぜになった心地よい記憶となって、大人たちの頭の隅に引っかかっている。



主人公三人が、とある公園に置かれたSLに乗って体験する本書に登場する出来事は、まさにこうした夢うつつの世界だ。空を走り、雲に乗り、往年のSLたちに出会う。ネコが喋り、雲のわたがしを食べ、そして銀河の海を渡る。古いSLに導かれた夢旅行が壮大である分、三人が気がついたときの残念感はたまらない。「もう終わるの?」元の公園で動かなくなったSLに、三人はそう叫びたかったに違いない。

公園に静態展示してあるSLに、今度勇気を出して乗ってみよう。もしかしたら…。大人にもそんなワクワク感を与えてくれる、珠玉の乗り物絵本だ。

『かわ』 ■作・絵: 加古里子 福音館書店 1966年

水源から河口まで川の一生をたどる絵本は数々あるが、この作品は単なる風景の描写にとどまらず、そこに住まう人々の営みや生活を



支えるさまざまな施設が、シンプルな画調のなかに実に生き生きと表現されている。また、表紙から裏表紙にかけて描かれている地図は本文と対応していて、比較しながら読むことで知らず知らずのうちに読図の基礎が頭に入る仕掛けもある。地形図好きには現在見ることでできない図式・記号なども興味深い。

昭和30年代に発表された作品であるため、描かれる風景は今では失われているものばかりであるが、不思議と違和感が無いのは、未知の世界への想像を駆り立てる力を地図が持っているからだろうか。

川は最後に海へと到達する。最終ページで見開きいっぱい描かれた水平線の先にあるものに思いを馳せてしまうのは、初めて手にした45年前から変わらない、この絵本の持つ力だと思う。

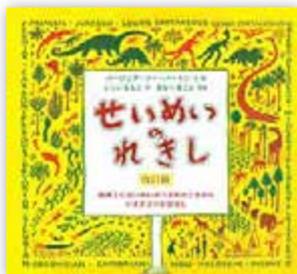
木村 美津穂

株式会社ほるぷ出版

『せいめいのれきし 改訂版』

■文・絵：バージニア・リー・バートン／訳：いしいももこ
監修：まなべまこと 岩波書店 2015年

地球が生まれてからこれまでの生命の歴史を、劇場仕立てで語る絵本。1964年に刊行されてから50年ものあいだロングセラーとして愛されてきましたが、今年、最新の学説をもとにアップデート



トされました。国立科学博物館の真鍋真博士が全体を監修。あたたかみのある絵のタッチはそのままに、恐竜絶滅の原因となった隕石の衝突について、恐竜の一部が鳥に進化したことなど、旧版が出版された頃には知られていなかった内容を変更し、学名や訳文にも適宜改訂が加えられました。壮大な命のリレーの舞台に登場する主役たちは、三葉虫、頭足類、両生類、恐竜に人類、たくさんの植物など。そして、物語の最後にバトンを受け取り、舞台の主人公になるのは、「あなた」なのです！自分の来し方とこれからを、ダイナミックに教えてくれる絵本です。

『ゆらゆらチンアナゴ』

■写真：横塚眞己人／文：江口絵理 ほるぷ出版 2014年

体を半分砂に埋まらせて、ゆらゆらゆれているチンアナゴ。水族館では大の人気者ですが、その生態は意外に知られていません。本書では、多数



の写真を用いてそのユニークな様子を紹介。全身を出して泳いでいるところ、ケンカをして怒っている顔、うんちをする瞬間など、ふだんはなかなか見られないチンアナゴのさまざまな表情を、思う存分ながめることができます。特筆す

べきは、巣穴の中が見られる写真。透明なポリマーを底砂にして、砂の中を観察できるようにしたそう。巻末には解説があり、チンアナゴって魚なの？何を食べているの？なんであんな形なの？などなど、子どもの疑問にズバリと答えてくれます。身近な存在から、生き物や科学に興味を持つきっかけになる絵本です。

小泉 宏之

東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授

『パパが宇宙をみせてくれた』

■作：ウルフ スタルク／絵：エヴァ エリクソン
訳：菱木晃子 BL出版 2000年

お父さんが子供に宇宙を見せてあげようというお話。宇宙という身近にない世界への子供の質問に対しても、お父さんはどれも誤魔化さず真面目に答えていきます。息子に感動を伝えようと一生懸命な父親、そんな父親を察してか気をつかったり強がったりもする息子。2人の思惑は微妙にずれているけれど、どちらも相手を思っている様子が感じ取れます。柔らかなタッチの温かい絵も相まって、決して派手ではないが親子の良い関係に触れた気持ちになります。



宇宙に関する絵本というと、どうしてもファンタジー要素が強いものが多く、科学に接する者としては距離を置きたくなることもあります。その点、この本のどこまでいっても実直なストーリーは親としても大変好感が持てます。一方、子供が好きそうなネタもしっかりと仕込んであり、親子別々の視点で楽しめる味わいのある一冊です。

『ジョージとあそぼう はじめてのロケット』

■原作：H. A. レイ／訳：福本友美子 岩波書店 2002年

子供にはお馴染みの「おさるのジョージ」がロケットに乗って宇宙に行くというお話。テレビでも馴染み深いジョージのお話ということに加えて、字も大きくストーリーも明快、

見せ場の打ち上げシーンはしっかり強調と、絵本を読み始めの子供にはピッタリの本。それにしても、ジョージの行動力にはいつも驚かされますが、すでに宇宙まで行っていたとは。



ただ、ロケットの外観は完全な単段式で、ジョージもすぐにパラシュートで帰ってきます。ロケットとは言っても宇宙には行っていないのかと思わせますが、最後にはしっかりと「うちゅうへいった」との記載。地球軌道には乗らずに地球と宇宙の境界、高度 100 km のカーマン・ライン以上に達して戻ってくる（落ちてくる）弾道飛行と考えれば、あながち荒唐無稽ではないのかと思わせるところが興味深い一冊です。

白石 俊明

富山県 立山カルデラ砂防博物館

『野や山にすむ動物たち 日本の哺乳類』

■作：藪内正幸 岩崎書店 1991年

描かれた獣たちが、本の中で躍動している図鑑です。

作者は動物への愛情と尊敬を筆に込め、毛の一本一本を丹念に描く手法から、絵描きならぬ「毛描き（けかき）」とも称された藪内正幸さん。緻密な観察に裏付けされた描写は、写真でも動画でもない2次元の絵を「生き物」へと昇華させ読者を惹きつけます。

50種もの動物を網羅し、姿かたち、食べ物、暮らす

場所や特徴ある行動について、わかりやすい言葉で解説しています。また、すべての漢字にフリガナがふられているので興味を持った子供は自分のペースでじっくりと読みすすめ、学ぶことができるでしょう。



実物からは目を背けがちな「ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ」の3種をどーんと見開きで紹介したり、テンやニホンジカの夏毛と冬毛を比較したりと、子供だけにとどまらず、ナチュラルリストを志す大人にも参考となる、わが子もお気に入りの一冊です。

『きらきら』

■文：谷川俊太郎／写真：吉田六郎 アリス館 2008年

富山県のような雪国に暮らしていると、除雪のわずらわしさゆえ、雪の美しさや恵みを忘れてしまう事もあります。それを思い起こさせてくれる一冊がこの本です。



気温や湿度によって無限に変化する雪結晶の数々を、吸い込まれるような美しい写真と、やさしく呼びかける谷川俊太郎さんの詩にのせて、流れるように紹介していきます。

雪結晶の写真は第一人者である吉田六郎さんが大雪山の天然雪を、凍えるような寒さの中、顕微鏡で撮影した

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本



地学標本／化石・鉱物・岩石
古生物／レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks
株式会社 東京サイエンス
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

Panasonic

Core Products
Security
Communication
Office
Infrastructure
Terminal System
AVC Network

Total Solution
マーケティング・セールス
システムインテグレーション
設置・施工
保守・メンテナンスサービス
クラウド・運用サービス

パナソニックだから、
可能なソリューションがある。

apan

パナソニック システムネットワークス株式会社 システムソリューションズジャパンカンパニー
詳しくはホームページで panasonic.co.jp/avc/psn/ssj/

力作です。苦心して完成した写真の一つ一つがきらきらと輝いています。透きとおる雪のつぶは、時に星のようにもアメのようにも見え、子供たちの創造力をかき立てることでしょう。この魅力を野外で子供たちに伝えたい、私自身も見てみたい。そんな思いにさせてくれます。

読み終えたとき、雪の舞う冬が、きっと待ち遠しくなることでしょう。

高木 成美

滋賀県立琵琶湖博物館 図書室

『にわのかいじゅうファイル』

■作：松橋利光 アリス館 2014年

「ガオー！かいじゅうだゾ！」と言いながら楽しめる、まるでウルトラマンの怪獣カードのような絵本です。この迫力ある写真は、実は家の庭でよく見かけるバッタやダンゴムシ、カナヘビ。



ニホンカナヘビは今にも襲いかかりそうに大きな口を開けて迫る姿、クロオオアリは2匹が戦う戦闘シーン、ショウリョウバッタとヒガシキリギリスは顔のドアップ！…と、それぞれの個性と魅力を最大限引き出す写真で読者を惹き込みます。また、それぞれに「見つけた場所」や「捕まえやすさ」などのポイント解説が添えられ、

外に出て実物を見ようとする子供たちにそのまま役に立つ仕掛けも。

さらに、和名と学名、卵からふ化したたくさんの幼生をお腹に抱えるオカダンゴムシの珍しい写真など大人にも驚きと発見がある一冊に仕上がっています。親子で一緒に新鮮な感覚で楽しんでください。

『田んぼの一年』 ■作・画：向田智也 小学館 2013年

見開きにひと月ずつ、12か月間の田んぼのようすが描かれています。ただ、その描き方が半端じゃない。地面の下、水中から上空、さらに人々の暮らしから鳥、虫、魚、植物、プランクトンまで、田んぼを取りまく全てを描いているのですから。



この本は、何度もくり返し読むことをお勧めしますし、きっと皆さんそうされると思います。例えば、月の数字の上には稲の育ちの変化が、画面中央には農家の人たちの暮らしが、田んぼのまわりには、そこに暮らす生きものたちが…。

さらに、画面を取り囲むように月ごとのテーマに沿った生きものの紹介と季節ごとの植物の変化など、190種類もの生きものが描かれています。

よく見ると枝にミノムシも。細部にまでいろんなモノが描かれていて子供たちの好奇心をくすぐるでしょう。読めば読むほど味わい深くなる一冊です。

— ご希望の恐竜・化石・動物・人類の
標本及び模型を探しご案内いたします —

マラウイサウルス
ティタノサウルス科
全長—10m



株式会社 ゼネラルサイエンス コーポレーション

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-11-8

TEL:03-5927-8356 / FAX:03-5927-8357

e-mail: gsc@shibayama.co.jp

http://www.shibayama.co.jp

包み込まれるような映像体験。

Media Globe Σ

「Media Globe Σ」は、最新の家庭用4Kテレビの、更に約4倍の高精細映像をお楽しみいただける、「8K」の投映解像度を持つ最新プロジェクタを搭載し、コニカミノルタの持つ先進の光学技術との融合により、高精細・高臨場感溢れる映像を、スクリーン全天に映し出します。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社 <http://www.konicaminolta.jp/planetarium/>

仲里 健

沖縄県立博物館・美術館

『ひろった・あつめた ぼくのドングリ図鑑』

■文・絵：盛口満 岩崎書店 2010年

海や山、川に公園…家から離れて遊びに行くと、いろいろな場所で「ドングリ」を見つけることができます。「このドングリの名前は何だろう」「どの木に実っているだろう」「食べられるかな。おいしいかな」と、思ったことがあるでしょう。そんなときに役に立つのがこの本です。日本のドングリから世界のドングリまで、絵で紹介しています。



種類の違うドングリなら形や大きさ色が違って当たり前ですが、同じ種類のドングリでもいろいろな特徴があることも教えてくれます。また、名前を知りたいときには、葉や枝、ボウシ（殻斗）から調べることができます。お出かけした記念にドングリを持ち帰って、お家で調べてみるのはいかがでしょうか。良い思い出が一層楽しいものになるでしょう。

『森のきのこ』 ■作・絵：小林路子 岩崎書店 1991年

日本全国に、どれだけのキノコがあるかご存知ですか？美しいもの、美味しいもの、大きいもの、小さいもの…。

しかし、毒キノコも存在します。姿かたちの似ているキノコもたくさんあります。せっかく採ったキノコが安全かどうか、知りたいと思いませんか？



そんなときに専門家がいたら安心なのですが…。そこでお勧めなのがこの本。日本全国の地域ごと、季節ごとにキノコが分類され、初めてのキノコでも調べることができます。さらに毒を持っているかどうかや、料理するときの注意も書かれています。また、緻密な絵が写真ではわからない細かい部分まで表現していて、キノコの特徴も簡単に理解することができます。子供の興味関心を高めるため、活用してみたいかがでしょうか。スーパーで売られているキノコを観察してみるのも面白いですね。

西田 雅美

科学技術館運営部

『かがみのえほん ふしぎなにじ』

■作：わたなべちなつ 福音館書店 2014年

鏡のようにピカピカと反射する銀色紙の背景に、カラフルな虹が映り込み、本を開く角度によってカラフルな虹の見え方が変化していきます。

筆者の作品製作テーマ「しかけの視覚伝達デザイン」が盛り込まれており、従来の飛び出す仕掛絵本とは違っ

オムロンのセンサーを使って

OMRON

人数 性別年代 滞留時間を数値化

展示内容、レイアウト変更の検討など企画・運営に役立つ！

ヒューマンビジョンコンポ Bluetooth LE モデル

コンパクトな手のひらサイズ

NEW

お手軽！客層分析 検索

オムロン株式会社 アプリケーションオリエンテッド事業部 お問い合わせ okao-vision@omm.ncl.omron.co.jp

NOMURA <http://www.nomurakougei.co.jp/>

Prosperity Partner

NOMURA

世界に、歓びと感動を

株式会社 乃村工藝社

本社：東京都港区台場2-3-4 TEL：03-5962-1171(代表)

た感動があり、デザインが変わることでどんな見え方をするのだろう。どんな絵柄だと面白く見えたり、子供が楽しいのだろうと考えてしまいます。

また本書によって、像が反転していることや立体的に見えるなど鏡の性質を知るきっかけにもなり、毎日の生活で鏡を見る際にも映り方を考え、楽しむことができる一冊です。



『理科好きな子に育つふしぎのお話 365』

■監修：自然史学会連合 誠文堂新光社 2015年



「人間が夢を見るのはなぜ？」子供からこんな質問をされたら、返答に困ってしまうのではないのでしょうか。本書は身の回りの自然の仕組みや面白さのなかで特に子供のころ疑問に感じたようなこと、大人でも知っているようで知らない日常の「なんで？」について365の話が集録されています。



各テーマのなかに「観察してみよう、考えてみよう、探してみよう」などヒントが記載されているので、読み終わった後も親子で一緒に取り組むことができます。さらに深い理解を得るため、実物を見たり、調べたりする場として博物館が活用されることを期待してしまう一冊です。

ここを動かす空間をつくりあげるために。

調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営



株式会社 丹青社 2015年9月 本社を移転しました

〒108-8220 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19階
TEL | 03-6455-8100(代表) URL | www.tanseisha.co.jp

札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・福岡・那覇・北京・上海

原 朋子

多摩六都科学館



『仕掛絵本図鑑 動物の見える世界』

■著：ギヨーム・デュプラ/訳：渡辺滋人 創元社 2014年



タイトルの通り、「動物には、私たちが見ている風景がどのように見えているのか」を描いている本です。よく、犬は色の区別がつかない、猛禽類は遠くの獲物もはっきり見えている、といった目の特徴が言われていますが、この本では最新の科学的研究成果とともに、その見え方を絵で示してくれます。この絵の効果は絶大で、文字情報だけでは漠然としていた「色の区別」「遠くがはっきり見える」という現象が、想像を超えるビジュアルで迫ってきます。



私たちは無意識に自分の捉えている世界がものごとの基準と思いがちですが、他の生き物の目を通して見た花の色、ものの輪郭、視野の広がりなどを知ると、あくまでも世界の一面しか見えていなかったことに気づかされます。仕掛け絵本として楽しみつつ、何かの動物になったつもりでいつも見ている風景を眺めてみてください。新しい世界が見えてくるかもしれませんよ。



『地球』 ■文・絵：加古里子 福音館書店 1975年



この本の始まりに、丸い地球の姿は登場しません。子供や犬の走り回る地面に始まって、アリの巣、木の根、田んぼや井戸の断面と、日常の風景から徐々に深い地面の下へと迫っていきます。地球の成り立ちを説明する科学の本ではありますが、ページをめくると地形とともに春夏秋冬の景色や人間の暮らし、都市の構造がまるで絵巻のように描かれ、読み終える頃には地球を広く俯瞰する視点が身に付いていることに気づくでしょう。



絵本の後に書かれた解説には「今まで出された地球に関する本に、地球内部に力点が置かれた本は比較的少数」とありますが、それもそのはず。この本が最初に発行されたのは1975年。プレートテクトニクス理論が世に定着した頃です。そんな時期に、本文はすべてかな文字ながら最新の研究成果を反映させた児童書を描いた作者の「子どもさん」に対する誠実さや愛情、科学の学びへの情熱が感じられる良書です。

広松 由希子

絵本評論家

『びっくりまつぼっくり』

■文：多田多恵子／絵：堀川理万子 福音館書店 2010年

小さい子供と歩くと、あちこちで立ち止まり、なかなか前に進みません。特に秋は、落ち葉や木の実を拾うのが大好きな子供たちにとって、恵みの季節。



道端で見つけたまつぼっくり。「ここにも ころん。あちこちにも ころん。」次々拾わずにはいられません。上から見ると花びらみたい。ひっくり返すとどんな形？ くるくる回りながら落ちていく羽みたいなものは何？ 子供が「面白い」「ふしぎ」と感じながら行動するペースにあわせ、ゆっくり展開する絵本。拾いものが大好きな2、3歳から日常の延長で、すんなり入り込める科学の入口です。

拾ったまつぼっくりを柵の上に並べて帰った後、雨に濡れたまつぼっくりは、びしょり、しょんぼり。でも朝になったら、すっかり、はりきり、元通り。種はあるけど仕掛けはない、自然の手品に、小学生や大人もわくわくします。

『これがほんとの大きさ!』

■作：スティーブ・ジェンキンス

訳：佐藤見果夢 評論社 2008年

ゴリラの大きな手に、ちょこんととまるピグミーネズミ

ツネザルの小さな手。自分の手とまじまじと見比べてしまう。同じ霊長類でも、こんなに大きさが違うんですね。

この絵本に登場する動物たちは、すべて実物大。大判の画面に、写真以上の説得力をもつ美しい切り絵で、



リアルな動物の大きさを実感させます。世界一小さい哺乳類のチビトガリネズミ（体長5cm）の表情に見入ったり、ページからはみ出すダイオウイカ（体長18m）の目玉（直径30cm）にぎょっとしたり。さらに観音開きの仕掛けを開くと、世界一大きい爬虫類の口の出現に、悲鳴。地球には、こんなすごい生き物がいっぱい！ ページをめくるたびに、新しい驚きが待っています。

近づいて見入ったり、思わずのけぞったり、体で実寸を感じさせる、デジタル絵本ではできない技。巻末の全身像と解説も面白く、いくつになっても楽しめます。

福島 清裕

国立国会図書館国際子ども図書館司書

国際子ども図書館では、子供に読書の楽しさを伝え、図書館や本の世界に親しむきっかけとなるように、さまざまな催しを行っている。

そのなかには、科学に興味を持ってもらうためのイベント「科学あそび」がある。また、毎月2回、6か月～4歳未満の子供とその保護者を対象にした「ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会」と毎週土曜日・日曜日には年齢別の「子どものためのおはなし会」を行っており、プログラムには科学の絵本の読み聞かせを組み込むこともある。そこで、子供たちが特に楽しんでいる様子がうかがえる科学の絵本2冊を紹介したい。

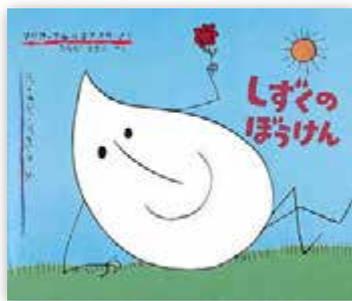
『しずくのぼうけん』

■作：マリア・テルリコフスカ／訳：うちだりさこ

絵：ボフダン・ブテンコ 福音館書店 1969年

一滴のしずくの旅物語を通じて、さまざまに姿形を変える水の性質と循環を紹介した絵本。バケツから飛び出た

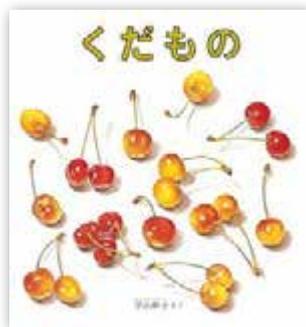
しずくは言葉を話し、クリーニングや病院に行くなど擬人化されて生き生きと描かれ、水の変化の様子を子供たちにわかりやすく伝える。「子どものため



のおはなし会」でこの本を読むと、子供たちは不安な様子や驚いた表情を見せ、しずくになりきって聞いている。リズムカルな文章も耳に心地よく、読み聞かせにも向く。

////////////////////////////////////
 『くだもの』 ■文・絵：平山和子 福音館書店 1981年

丸ごとのくだものとカットされたくだものを対比し、写実的に描いた絵本。「ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会」でこの本を読むと、親が子供に「どうぞ」と渡す真似をしたり、本物そっくりに描かれたくだものを子供が食べたそうに口を開けたりする光景を目にする。簡潔で繰り返しの多い文章も幼児にわかりやすい。くだもの名前だけでなく食べ方も描かれているので、親子で見て、読んで一緒に楽しめる。



渡邊 百合子

国立科学博物館 学習企画・調整課 コンパス担当

////////////////////////////////////
 『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』

■作：長谷川義史 BL出版 2000年

「ねえ、おじいちゃん、おじいちゃんのおとうさんはどんなひと?」

この素朴な質問、実は生命の歴史へとつながる、とても深いものだったのです!「おじいちゃん」を、どんどん遡って行き着いた先は…さあ、どこだったのでしょうか?

特に後半の「ひい ひい ひい ひい…」と続く展開が、

長きにわたる命のリレーをリズムよく実感でき、この絵本を手にした人たちの想像をかき立ててくれるようで、コンパスのライブライリースペースでも、親子揃って「ひいひいひいひい…」と上手に息継ぎをしながら、壮大な「おじいちゃん」めぐりの旅に出ている様子がちらほらと見られ、つい笑みがこぼれてしまいます。



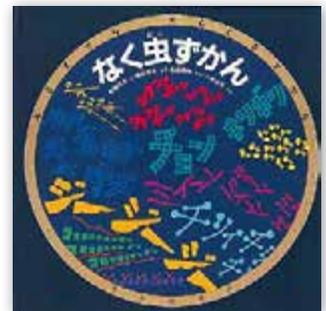
こんな絵本体験を通じて親子で博物館をまわると、新たな展示との関わり方も生まれてきそうですね。

子供の素朴な質問と一緒に考えていくと、いつの間にか科学への扉を叩いていることを改めて感じさせてくれる絵本です。

////////////////////////////////////
 『みるずかん・かんじるずかん なく虫ずかん』

■絵：松岡達英/文字：篠原榮太/音：佐藤聰明
 文：大野正男 福音館書店 1991年

「テレビをけして、耳をすましてごらん!人類が地上にあらわれるまえから奏でられてきた、虫たちの音楽がきこえてくる」という呼びかけから始まる、見る・感じるをテーマにした図鑑です。



驚くことに、ページをめくった先に描かれているのは「カナカナカナ」「チッチッチッチ」 という虫の鳴き声だけ! 図鑑の中には、55種の虫の鳴き声が表現されており、各ページで虫たちの大合唱が繰り広げられています。「こんな鳴き方をするのは、どんな虫なのかな」、そんな疑問を持ってページを繰ると、その鳴き声の主が緻密な絵で表現されているところも、親子の会話が膨らむ嬉しい仕掛けかもしれません。

大人の方もお子さんも、この図鑑を持って家の近くをまわってみると、新しい不思議な世界を発見できるかもしれません。ぜひ、この本を片手に耳をすませて、鳴き声さがしの冒険に出てみてください。



■ トピックス - 火災と博物館

アメリカ自然史博物館で、火事発生

2014年12月14日(金曜)の15時30分頃に、多くの観覧者で賑わうニューヨークのアメリカ自然史博物館で、火事が発生した。火元は、建物の屋外に設置された空調設備だった。出火当時、空調設備の修理が行われており、何かの原因で空調設備のフィルターに引火し、この火から発生した大量の濃い煙がダクトを經由して、館内の北アメリカ北西海岸の先住民展示ホールに流れ込んだ。そして同ホールの煙感知器が作動し、スプリンクラーから消火用の水が放水された。館内には、職員と観覧者を併せて約4,000人がいたが、迅速な避難誘導のおかげで、全員館外に退避し、けが人はなかった。同ホールのスプリンクラーから大量の水が放水されたが、被害も数点の北米先住民の実物の展示品が水損を受けただけで済んだようだ。一時は、現場に急行した消防車やパトカー、救急車や野次馬で騒然とした状態だったと報道は伝えている。翌日の土曜日は、平常通り開館したようだ。

American Museum of Natural History, New York.

<https://www.youtube.com/watch?v=r9WEK-alCEY>

カリフォルニアの電話博物館が、野火によって焼失

ありとあらゆる電話機を集めた専門博物館が、2015年9月11日にカリフォルニア州東部で起きた野火によって焼失した。場所は、サンフランシスコ近郊の町サンアンドレアス。被害に遭ったのは、ジョン・K・ラルエ電話の博物館。同館では、人身被害はなかったものの、1880年代から現在に至るまで世界各地で製造された数多くの電話機をはじめ、電話交換機や電話帳や商品カタログが、建物もろともすべて灰燼に帰した。同館は、アメリカでカリフォルニア州オークランドを本拠地に、卸電話通信に特化した通信事業者パック・ウェスト・テレコミュニケーション社(1980年創業)の創業者ジョン・K・ラルエによって設立され、非営利法人として運営されている。報道によると、館の運営法人の会長を務めるラルエ氏は早くも再建の意欲を示しているということで、関係方面に働きかけて、歴史的に価値のある電

話機の収集を始めているようだ。ジョン・K・ラルエ電話の博物館を焼いた野火は、約29,000ヘクタールの広大な地域に及び、475戸の家屋と343件の建物が焼失した。死傷者は3名。同館には屋内で発生する火事対策にスプリンクラーが完備されていたが、外からの猛火には為す術がなかった。

The JKL Museum of Telephony, San Andreas California.

<http://jklmuseum.com/>

■ 企画展・特別展

米エヴァハート博物館で、カクテル展を開催

米ペンシルバニア州スクラントン市にあるエヴァハート博物館で、いろいろな種類の酒を具合よく混ぜたカクテルを紹介した企画展が、2015年7月10日から12月31日まで開催されている。同展では、カクテルの科学的な側面をはじめ、カクテルの起源と歴史を紹介している。またカクテルに使われる様々な植物も紹介しており、薬草を含む、それらの標本は、同時開催している植物標本所蔵品展「Everhart Botánica: Selections from the Twining Herbarium」で紹介されている。同館は、20世紀の初頭にアメリカ各地で誕生した地方博物館のひとつであり、地域の歴史や、自然史標本の収集に力をいれた博物館である。

To Your Health! The Science, Culture & Art of the Cocktail.

Everhart Museum, Scranton.

<http://everhart-museum.org/exhibitions/current-exhibitions/>

マドリッド自然科学博物館で、土壌展を開催

たかが土(つち)。されど土(つち)。土を侮るなかれ。土から多くの恵みが生まれ、2015年10月には土からノーベル賞も生まれた。また2015年は国連が定めた国際土壌年の年でもある(決議は2013年12月に行われた国連総会)。

国際土壌年に呼応して、スペインの首都マドリッドにあるマドリッド国立自然科学博物館で、土壌展が2015年10月

1日から2016年3月30日まで開催されている。同展では、食糧生産に不可欠な土のさまざまな特色を紹介している。

El Suelo. Un paseo por la Vida.

Museo Nacional de Ciencias Naturales, Madrid.

http://www.mncn.csic.es/Menu/Exposiciones/Futuras_expofutura_ElSuelo_ES/seccion=1185&idioma=es_ES&id=2015012612210001&activo=11.do

南アフリカ博物館で、蜜蜂の生態展を開催

南アフリカ共和国のケープタウンにある自然史博物館「南アフリカ博物館」で、蜜蜂の生態を紹介した企画展が、2015年1月1日から2015年11月30日まで開催されている。蜜蜂の活動の中で、特に人間の食糧生産において、蜜蜂が植物の授粉活動を通じて、重要な役割をはたしていることに力点を置いている。

Buzz About Honeybees and Pollination.

South African Museum, Cape Town.

<http://www.iziko.org.za/calendar/event/buzz-about-honeybees-and-pollination>

オックスフォード大学自然史博物館で、ウィリアム・スミスの地質図展を開催

ウィリアム・スミス(1769年～1839年)は、イギリスの土木技師・地質学者であり、数多くの地層観察と類稀な洞察力で、「イギリス地質学の父」と称えられている。スミスの生涯と業績を紹介した企画展が、オックスフォード大学自然史博物館で開催されている(会期:2015年10月9日～2016年1月31日)。同展では、スミスが制作した地質図をはじめ、書簡や彼が発掘した化石と発掘に使った道具が展示されている。

Handwritten in Stone: How William Smith and his maps changed geology.

Oxford University Museum of Natural History.

<http://www.oum.ox.ac.uk/visiting/current.htm>

■ 常設展

スミソニアン自然史博物館で、化石ホールをリニューアル

2014年4月27日よりスミソニアン自然史博物館で化石ホールの全面的なリニューアルが始まった。同ホールの展

示は大々的に内容を新たにし、2019年にリニューアルオープンする予定だ。同ホールにあった恐竜の骨格標本の多くは、同館2階の「アメリカの最後の恐竜たち」に移され、引き続き見ることができる。Fossil Hall.

National Museum of Natural History, Washington DC.

http://nsmnh.typepad.com/smithsonian_fossils/2015/06/taking-the-fossil-halls-apart-wrapup.html

<http://naturalhistory.si.edu/fossil-hall/last-american-dinosaurs/>

■ 新設館

米アラバマ州で、クック自然科学博物館が2017年に開館へ

アラバマ州ディケーター市(人口:約55,000人)に、総工費1,700万ドルの自然史博物館が2017年春に開館する。非営利団体として運営される同館は、整備に700万ドルの私財を投じた実業家ブライアン・クックにちなんで、クック自然科学博物館と名付けられた。クック氏はディケーター市に祖父が1928年に創業した有害生物防除会社クックス・ベスト・コントロールを経営しており、家業であるシロアリ駆除で財をなし、地元への富の還元と企業メセナとして、博物館を贈ることになった。同館の起源は、もともと祖父が害虫駆除の研究用として集めたシロアリ等の昆虫標本からなるコレクションだったが、その後ブライアンの父の手を経て、創業者の孫であるブライアンまで三代に渡って収集してきた周辺地域の岩石、鉱物、貝殻、野生生物等からなるコレクションに発展していった。クック自然科学博物館の開館に先立って、ほぼ同じ価値観を共有した家族がつくったコレクションは、会社の敷地内の一角に限定的に長く公開され(申請があれば、標本を見せる)、地域のボーイ・スカウト団体が彼らの活動の一環としてよく訪れていた。5,300㎡の延べ床面積をもつ新しい施設は、脊椎動物、無脊椎動物、地質学、古生物学の標本を収集、展示公開することになっている。またディケーター市はテネシー川に面していることもあって、テネシー川流域の生態系の紹介にも力を入れる予定だ。

Cook Museum of Natural Science, Decatur Alabama.

<http://www.cookmuseum.org/>

11月12月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
釧路市こども遊学館	クリスマスイベント	12月12日～12月13日
牛の博物館	家族で楽しむ企画展「ウッキウキ！サル展」	11月28日～1月31日
仙台市天文台	企画展示「はじまりをさがす旅－『エレンの宇宙』原画展」	10月1日～12月28日
秋田県立博物館	企画展「新着・収蔵資料展 ～未見！発見！秋田県！」	11月14日～4月3日
山形県立博物館	特別展「蝶と蛾－妖精たちのつどい－」	9月19日～11月29日
郡山市ふれあい科学館	ハワイエ企画展「宇宙誕生」	10月1日～11月29日
	ハワイエ企画展「宇宙から見た地球の絶景」	12月1日～2月28日
	スペースパーク企画展「錯覚美術館」	12月5日～1月11日
ミュージアムパーク茨城県 自然博物館	第64回企画展 暮らしの中の動物－嫌われものの本当のすがた－	10月10日～1月31日
日立シビックセンター科学館	広がるいのち－深海から宇宙まで－	11月13日～1月17日
群馬県立自然史博物館	企画展「たべる。」	10月3日～11月29日
群馬県立ぐんま昆虫の森	第10回ぐんま昆虫の森「虫の絵」作品展	11月7日～12月26日
鉄道博物館	ボルティモア&オハイオ鉄道博物館展	9月19日～12月6日
	大宮駅・宇都宮線開業130周年企画展 OH! MIYA HISTORY	10月10日～2月14日
入間市博物館	アリットフェスタ2015特別展 「板碑で読み解く武士と寺院－私の身近にある中世－」	10月31日～12月13日
埼玉県立自然の博物館	パレオパラドキシア～大野原標本発掘から40年～	9月19日～12月27日
千葉県立中央博物館	「どんぐり～花から実への大変身～」	10月20日～1月24日
	「おしゃれ虫 カタゾウムシ」	10月24日～12月20日
	「水草 ふしぎがいっぱい、水辺のいろどり」	10月31日～2月14日
千葉県立現代産業科学館	企画展「最先端ネットワークのかたち」	10月17日～12月6日
国立科学博物館	特別展「ワイン展－ぶどうから生まれた奇跡－」	10月31日～2月21日
郵政博物館	企画展「年賀状展」－年賀郵便の歴史やまつわるあれこれ－	11月21日～1月11日
地下鉄博物館	地下鉄建設の歴史展 ～東京の地下鉄を中心として～（仮称）	11月17日～1月11日
がすてなーに ガスの科学館	東京ガス「火育フェス」	11月7日～11月8日
	クリスマスイベント	12月12日～12月13日
多摩六都科学館	冬の特別企画展「KAGAYA写真展 オーロラと星座の世界」	12月5日～12月27日
横須賀市自然・人文博物館	横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念展 「すべては製鉄所から始まった－Made in Japanの原点－」	10月31日～1月31日
新江ノ島水族館	10月テーマ水槽「ハロウィン～」	10月1日～10月31日
	デンキウナギのecoツリー点灯	11月1日～11月25日

開催館	展覧会名	開催期間
新江ノ島水族館	11月テーマ水槽「さわやか秋晴れ 紅葉狩りにでかけよう」	11月1日～11月30日
	ようこそ「シンカイゾク」の世界へ 応用編	11月1日～11月30日
	海月の宇宙～クリスマス～	11月1日～12月25日
	幻想的なクラゲのグラスツリー	12月1日～12月25日
	ひと足早い干支水槽 2016	12月1日～12月25日
	12月テーマ水槽「みんな大好き！カラフルクリスマス！！」	12月1日～12月25日
平塚市博物館	秋期特別展 「後世に残したい相模川流域の地球遺産 -相模川をジオパークに-」	10月17日～11月29日
立山カルデラ砂防博物館	特別展「新湯 -立山カルデラの神秘の池-」	10月3日～12月26日
岐阜県博物館	特別展「自然のくすり箱 ～薬草とわたしたちの暮らし～」	9月11日～11月15日
	岐阜県博物館移動展「みのひだ 古生代の記憶」	12月11日～1月24日
中津川市鉱物博物館	第19回企画展「地質図と岐阜県の石」	7月18日～12月13日
名古屋市科学館	特別展「生命大躍進～脊椎動物のたどった道」	10月17日～12月13日
滋賀県立琵琶湖博物館	企画展示「琵琶湖誕生 -地層にねむる7つの謎-」	7月18日～11月23日
キッズプラザ大阪	世界の家をめぐる旅シリーズ vol.6 ミワクの天幕 テントからドームへ！	11月20日～11月25日
きしわだ自然資料館	とりのたまご	11月1日～12月13日
兵庫県立人と自然の博物館	2015年国際土壌年記念巡回展「土ってなんだろう？」	10月31日～1月9日
明石市立天文科学館	特別展「月の写真コンテスト展」	10月17日～12月6日
	特別展「2016年全国カレンダー展」	12月12日～1月17日
鳥取県立博物館	日本近代洋画への道 -山岡コレクションを中心に	10月3日～11月8日
	戦後70年 鳥取と戦争	12月5日～1月11日
島根県立宍道湖自然館	第31回特別展「Gobius外来生物NEWS～生き物たちの事件簿～」	11月18日～1月11日
防府市青少年科学館	秋の特別展「オートマタの世界展」	10月24日～12月6日
	ソラールのクリスマス2015	12月19日～12月23日
愛媛県総合科学博物館	企画展「なつかしの家電 おどろきの道具」	10月10日～11月23日
	巡回展「森に親しむ博物館」	10月17日～11月8日
	企画展「めぐみの海・瀬戸内海」	12月12日～1月31日
北九州市立自然史・歴史博物館	世界文化遺産登録記念展「世界遺産のまち 北九州と明治日本の産業革命」	7月4日～11月8日
	秋の特別展「医は仁術」	10月10日～1月11日
佐賀県立宇宙科学館	有田焼創業400年記念 古くて新しい素材セラミック展	12月5日～2月14日
宮崎県総合博物館	美しき宮崎の滝200 ～なぜそこに滝があるのか？～	10月17日～11月29日

リニューアル情報

兵庫県立人と自然の博物館

[更新箇所] ひょうごの岩石と鉱物

[更新内容] 兵庫県には古代から採掘され続けた鉱山が多数あり、それらの鉱山から産出してきた特色ある岩石・鉱物標本を、国内や世界各地から産出したさまざまなヒスイとともに展示します。

[更新面積] 33㎡

[公開日] 平成27年11月1日

[準備期間] 平成27年10月1日～平成27年10月30日



「学芸員ネットワーク・いわて」

平成27年度研修会 報告

「学芸員ネットワーク・いわて」とは

博物館における学芸員及び实际的に学芸活動に携わる職員の資質向上のために、連携・研鑽を図り、博物館等の発展に寄与することを目的に、研修会を実施しています。博物館活動に興味がある方ならどなたでも入会できます。

★開催日…平成27年10月20日(火)～21日(水)

★開催場所…研修会場 宮古市川井生涯学習センター
現地見学会 宮古市北上山地民俗資料館、
西塔幸子記念館

★主催…学芸員ネットワーク・いわて

★プログラム

10/20 tue	☆研修会開会	13:00～13:20
	☆話題提供	13:20～14:20
	☆グループ討論	14:30～15:30
	☆意見発表	15:30～15:50
	☆北上山地民俗資料館見学	15:50～16:30
	☆協議	16:30～17:00

10/21 wed ☆現地見学会 9:30～11:30



話題提供の講演



見学の様子

不定期

連載コラム

開始の

お知らせ

今号より、コラム「我が館の推しなモノ・コト」を不定期連載することになりました。執筆者一押しの展示品や館を挙げておすすめしたい名品、さらには館内のおすすめスポット、売店・レストランのおすすめメニュー等々、所属館にまつわるモノ・コトであれば何でもOKの紹介コーナーです。

思わず足を運びたくなるような一品との出会いがあるかも…?どうぞお楽しみに!
※執筆担当は持ち回りで、毎号の執筆者による次回指名制となります。
皆様ご協力いただけますようお願いいたします。



第1回 国立科学博物館 池本 誠也 氏

トリケラトプスvs待ち伏せティラノ



国立科学博物館公式HP
<http://www.kahaku.go.jp>

今年7月の地球館リニューアルオープンに伴い、新たに登場した展示です。双方とも最新の学説を反映したポーズで展示しています。前傾姿勢で乗り出したトリケラトプスの全身骨格を下から見上げると迫力満点です。それをしゃがんだ姿勢でひそかに狙うティラノのポーズは少しユーモラスにも感じます。このポーズで再現しているのは世界でもここだけで、展示場に入るとすぐに目に飛び込んでくる両者の緊迫した様子は、恐竜展示場の新たなシンボルです。

予告 次回執筆者は現在調整中です。

第23回研究発表大会

事例発表者の募集について

平成28年2月26日(金)に富山市科学博物館で開催する第23回研究発表大会での事例発表者を募集します。今回の大会テーマは「科学系博物館における展示の新しい可能性-事実の伝達と演出のチャレンジ-」です。活発な情報交換の場となるよう、自館の取り組みや課題などは是非ご紹介ください。

応募は口頭発表、ポスター発表とも11月25日(水)までに、事務局宛メールかFAXでお申し込みください。

詳しくは、10月13日付けで各加盟館宛にお送りしました要項をご覧ください(全科協HP<<http://jcs.jp/>>でも募集要項をご覧いただけます)。皆さまの応募をお待ちしています。

平成28年度 巡回展開催館募集

国立科学博物館製作の巡回展について、開催館を募集しています。
ご希望・ご質問がありましたら、メール等で事務局までご連絡ください。

①ノーベル賞を受賞した日本の科学者



2015.10.1&10.2「朝日地球環境フォーラム2015」

②日本の生物多様性とその保全



2015.8.1~10.3「東京農工大学科学博物館」

※輸送費および設営にかかる費用については、財団法人全国科学博物館振興財団から助成を受けることができます。
※貸出期間については、お申し込み時にご相談ください。



全科協ニュース編集委員

大島 光春(神奈川県立生命の星地球博物館主任学芸員)
沓名 貴彦(国立科学博物館理工学研究部研究員)
佐久間大輔(大阪市立自然史博物館学芸課主任学芸員)
西田 雅美(公営財団法人日本科学技術振興機構
科学技術館運営部副主任)
中井 紗織(国立研究開発法人科学技術振興機構
理数学習推進部能力伸長グループ)
畠山 泰英(株式会社キウイラボ代表取締役)
平濱美紀子(ディスカバーパーク焼津事業係長)
中山 由紀(国立科学博物館事業推進部連携協力課長)

全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課
(担当:村上、飯岡、中島)
TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9898
info@jcsm.jp
発行日 平成27年11月1日
発行 全国科学博物館協議会©
〒110-8718
台東区上野公園7-20 国立科学博物館内
印刷 株式会社セイコー社